

いもる

Focus 医療安全推進室 高橋香

Pickup! 内視鏡検査でできること

Information 村松病院長退任式など



Vol.18

TAKE
FREE

医療過誤を防止するために



高橋 香 | たかはし かおり

留萌市立病院 医療安全推進室科長
旭川市出身、1995年入職。手術・中央材料室科長、人工透
析室科長を経て2018年に現職となる。
趣味はロマンス、胸キュンの韓国ドラマを観ること。

医療安全とは何ですか

医療事故や医療過誤のような医療トラブルを未然に防止し、安全な医療サービスを提供できる状態をつくる取り組みを病院全体で行うことです。これを「医療安全管理体制」と言います。また、人的トラブルを起こさないための対策と、トラブルが起きた場合の対策に取り組み、安全な医療サービスの提供ができる状態のことを言います。

どのような業務内容ですか

医療安全管理体制は、医療者個人の対応のみではなく、「組織全体」として取り組んで構築しなければ達成できない重要なシステムです。そのシステムとは、多数の要素が集まってまとまりをもった組織や体系のことを言いますが、医療事故を可能な限り防ぐためにこの安全管理システムを根付かせ機能させることで、医療機関内における「安全文化の醸成」を達成することが具体的な目的となります。

医療安全の定義としては、「医療が安全であること!」「患者が安全であること!」そのためには「医療事故の防止」が医療機関における最優先課題となっています。しかし、医療は危険なリスクも伴います。医療は不確かであり、不確実で複雑、高度な知識と技術が必要で、「侵襲」がある行為を「ひと」が実施しており100%の絶対安全はないのです。そのため医療安全の目標としては、「絶対安全」ではなく「不要リスクの低減」を目指しています。

現在私が「医療安全管理者」ですが、医療機関における医療安全管理者の位置づけとは、医療機関の管理者から安全管理のために必要な権限の委譲と、人材、予算、インフラなど必要な資源を付与されて管理者の指示に基づき、その業務を行う者とされています。

医療安全管理者の業務は、医療機関の管理者から移譲された権限に基づいて、組織全体を俯瞰した安全管理に対する医療機関内体制の構築に参画し、委員会等の各種活動の円滑な運営を支援する。また、医療安全に関する職員への教育・研修、情報の収集と分析、対策の立案、医療事故発生時の初動対応、再発防止対策案、発生予防および発生した医療事故の影響拡大防止等に努める。そして、これらを通し、安全管理体制を組織内に根付かせ機能させることで、医療機関における安全文化の醸成を促進する、とされています。これらをまとめると下の表のようになります。

仕事のやりがい

医療安全の仕事をするようになって「俯瞰」でみるようになり、部門問わず疑問や気になることが出てくるようになりました。何か改善策はないか考えたときに現場のスタッフから情報を収集することにより、今まで関わりの薄かった職員が身近に感じるようになり、コミュニケーションが取れるようになりました。コミュニケーションが良好になることは、安全面でも

医療安全管理者の業務内容

- 安全管理体制の構築
- 医療安全に関する職員への教育・研修の実施
- 医療事故を防止するための情報収集、分析、対策立案、フィードバック、評価
- 医療事故への対応
- 安全文化の構成



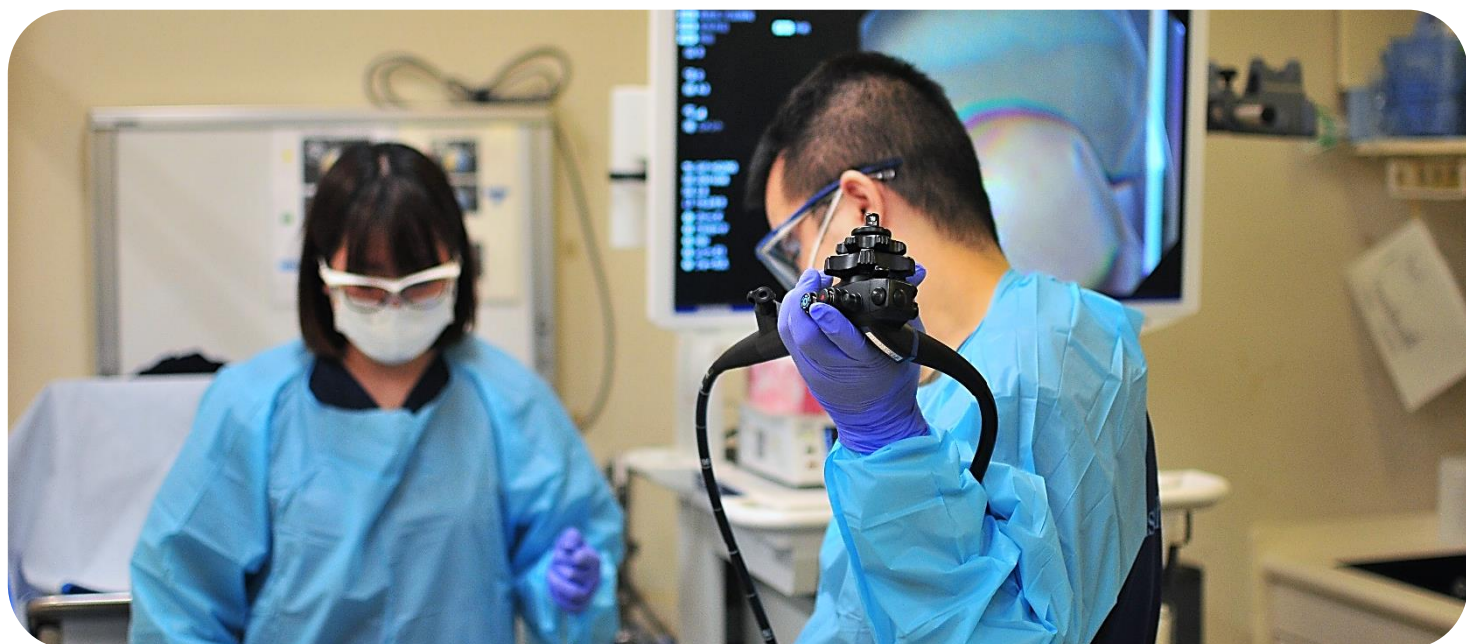
多職種が集まり話し合いをしている様子

機能しやすくなり、相談しやすい関係へと発展していきます。医療安全管理者の業務自体は幅が広く、いわば「なんでも屋」的なところがあり、精神的にも結構きつい仕事です。でも、問題意識を持った仲間が増え、様々な考えや対応策、アイデア、改善策、可能性を一緒に考えてくれるなど、当院をもっと良くしたい職員が少しずつ増え、協力してくれることが今の私の支えとなり、やりがいに繋がっていると思います。

内視鏡でできること

PICK UP!

胃がんの早期発見から治療など



01.内視鏡検査とは

内視鏡は先端にカメラ・レンズのついた太さ1cm程度の細い管です。内視鏡を身体の中に挿入して直接患部を観察します。直接観察することで精密な検査と治療が可能です。必要時には一部を採取し、悪性もしくは良性の判定をするため病理検査に提出します。このように病気の早期発見や治療を行う上で重要な検査です。

02.当院での主な内視鏡検査や治療実績

- ・EGD（上部内視鏡検査）…食道、胃、十二指腸などの検査です
 - ・TCS（下部内視鏡検査）…大腸（結腸）、肛門を調べます
 - ・ERCP（内視鏡的逆行性膵胆管造影）…胆道の詰まりに対する検査、治療を行います
 - ・EMR（内視鏡的粘膜切除術）…2cmの腫瘍やポリープに対して行うもの
 - ・ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）…高度な技術を要する剥離術（次ページで解説）
- また上記の検査以外にも食道や大腸の拡張術やステント留置も行っています

けてください

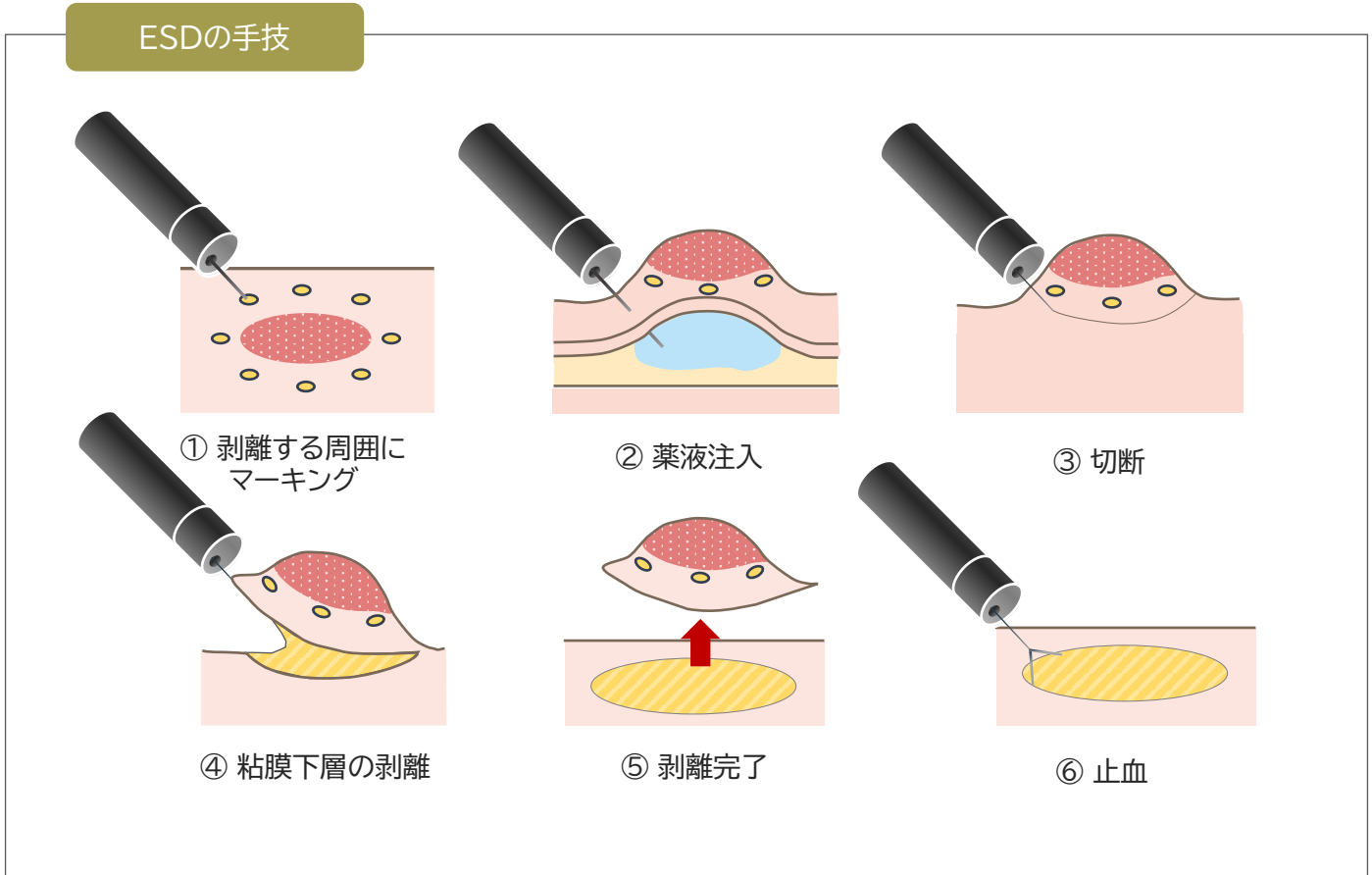


2021年の内視鏡検査実績

EGD(上部消化管)[食道・胃・十二指腸]	1669件(うち、経鼻カメラ220件)
TCS(下部消化管)[大腸]	748件
内視鏡ポリープ切除術	60件
ERCP(内視鏡的逆行性膵胆管造影)	194件
EMR(内視鏡的粘膜切除術)	大腸 155件 胃2件
ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)	大腸 4件 胃12件
内視鏡的止血術	23件
内視鏡的異物除去	6件

03. ESD (内視鏡的粘膜下層剥離術)とは

ESDは近年飛躍的に進歩した器具や技術を用いて、早期胃がんに対する機能温存療法です。この手技を選択することで局所のみ切除となり、侵襲が少なく、身体的負担が軽減しますが、高度な技術を要します。



04. 内視鏡室看護師からみなさんへ

内視鏡検査は身体に異物を挿入するため、「辛そうだし、不安だな…」と緊張や不安を抱いていると思います。内視鏡検査はリスクも伴い、苦痛なく楽にできるものとは言い難いですが、専門分野のスタッフとして医師や診療放射線技師とお互い協力しながら安心・安全を第一に患者様に寄り添いサポートいたします。

当院は看護師7名（うち内視鏡検査技師※2名含む）と看護助手1名で「検査チーム」として、内視鏡をはじめとする検査全般を担い、24時間体制で緊急時の検査にも対応しています。安心・安全に検査を受けていただくために、各検査ごとに環境を整えて皆さんを迎え入れています。また内視鏡スコープは消化器内視鏡学会のガイドラインに沿った洗浄消毒を行っており、感染対策に努めています。

内視鏡の検査に関して不明な点はスタッフまでご遠慮なくお伝えください。

※内視鏡検査技師とは日本消化器内視鏡学会の認定する資格です。

私たちが担当します！
安心して検査を受



村松病院長退任式が行われました

2023年1月31日をもちまして村松博士前病院長が退職されました。

村松前病院長には、その功績が認められ「留萌市立病院名誉院長」の称号が授与されました。

名誉院長の称号は、病院長として多年在籍し、留萌市立病院の充実・発展、並びに地域医療の向上において功績が顕著であった方に対して留萌市長から与えられます。今回、6年10か月にわたり留萌市立病院の運営を維持し、地域医療を守り続けてきたことが認められました。

今後は名誉院長として病院の業務運営に助言や指導を、また毎週火曜日には診療を応援して頂くことになっています。



高橋副院長から村松名誉院長へ

村松先生は初めてお会いした時から物腰柔らかく、気さくな雰囲気の中で病院、診療の今後について相談させていただいたように記憶しています。

2016年4月に院長兼事業管理者として着任されると、民間病院で培ったノウハウを発揮され、早速経営改善を含む病院の改革に取り組みられました。中でも医師事務作業補助者の育成と配置、栄養サポートチーム(NST)活動、地域包括ケア病棟開始と病棟再編、電子カルテ導入は様々な困難を伴う中、達成された大きな業績です。電子カルテを導入し、「さあ、これから」という時に新型コロナウイルスのパンデミックに入ってしまった。それでも先生は新型コロナウイルスの検査体制の整備や病棟確保など迅速に対応され、行政との連携にも尽力されました。危機における状況判断の早さと的確さに私などはいつも感心していました。マネジメントを一気に受けて下さったおかげで安定した診療業務や病院の運営が維持できたと思っております。

最後になりますが、村松先生にはお身体を大事にしながら名誉院長として引き続き当院を見守って下さいますようお願い申し上げます。7年間有難うございました。



マイナタッチを設置しています

2022年4月1日より、マイナンバーカードの読み取りに対応した顔認証付きカードリーダー「マイナタッチ」を総合案内、会計窓口、東雲診療所会計窓口の3か所に導入しました。

このシステムは、マイナンバーカードをリーダーに読み込ませ、顔認証された患者様の保険情報等を院内システムで確認するもので、来院時や会計時の保険証の提示が不要となり、手続きをスムーズに行うことが出来ます。

また、本機を使用してマイナンバーカードと保険情報との紐づけ作業を簡単に行うこともできます。Webでの申し込み等複雑な操作をせずに数秒で紐づけできるため、多くの方にご利用いただいています。導入開始から利用者数は増加しており、マイナンバーカードの普及や機能拡大に伴い、今後も多くの方にご利用いただきたいと思えます。



是非ご利用ください！

ケア・サポートセットが始まりました

2022年12月1日より、入院の際に必要な病衣や消耗品を日額定額制で提供するケア・サポートセット(CSセット)を導入しました。

これにより病衣・タオル等の衣類、歯ブラシ・コップ・箱ティッシュ・シャンプー等の日用品、オムツや口腔ケア用品等、様々な物品を提供することができます。提供される衣類については洗濯を含むサービスとなっていますので、入院時に物品購入する負担の軽減や洗濯などの手間から解放されます。

また、面会や来院者を制限している場合にも患者様に消耗品を安定して供給できます。さらに院外からの物品持ち込みを削減することや、専門業者へ洗濯を依頼することで、院内の衛生環境の向上や感染対策にも有効です。



※ 写真は提供物品の一部です

**約80%の患者様に
ご利用いただいています！**

第23回院内研究発表会が開催されました

2023年2月11日土曜日に院内研究発表会が開催されました。前年度に引き続いて新型コロナウイルス感染防止の観点から観覧席は設けず、YouTubeライブのみの開催となりました。日常の業務の中で問題点や課題を見つけて研究を行い、その成果をスライド形式で発表を行います。

コロナ禍で忙しい業務の中、今年は5題の発表があり、3東病棟では面会制限を行っている中で、家族の不安をくみ取り、どのように看護につなげていくかという発表。2東病棟では点滴などのチューブ類を自己抜去されないための患者に優しいグローブの開発や検討を行った発表などがありました。

質疑応答では座長や副院長などから様々な質問が飛び交い、演者と熱いディスカッションが繰り広げられました。

また、今回の演題の中から自治体病院学会などへの参加を予定しています。

後日、YouTubeライブで見られなかった職員のために、収録動画を公開して、今後の研究のヒントや自己研鑽に役立ててもらいました。

結果② 家族の知りたい情報・要望

カテゴリ	サブカテゴリ
疾患の回復状況に対する不安と期待	疾患の悪化に対する不安
食事摂取に対する不安	検査からの回復への期待
退院に向けた不安	食生活改善の状況
患者が入で入眠していることに対する切なさ・申し訳なさ・疑念の共有	薬し入れの回数状況
電話連絡による患者の状況を理解できたことに対する安心	退院に関する患者本人の意思が直接確認できないもどかしさ
入院生活を豊かにさせたい家族の思い	患者の怪我への対応
直接、患者をケアできないジレンマ	家族の不安の解消
	家族の希望を叶えたいという思い
	看護士の増員状況・勤務体制
	家族のしたいケアが行われていないことに対する不満

第2席 電話連絡を通して見える面会制限下における家族看護を考える
3東病棟 平井 悠斗

結果 ①不安要素別アンケート結果(複数回答)

第4席 救急外来勤務における看護師が抱く不安の要因
救急外来 小笠原 聖純

YouTubeライブの様様

Postscript

先日ある勉強会に参加しました。講師の好きな言葉として、TVドラマの「半沢直樹」の主人公のセリフで、「大事なのはどこで働くかじゃない。どう働くかだ。」ということを知っていました。留萌市立病院は、地方の病院ではありますが、留萌でもできるだけ都会の病院と同じような医療体制を提供できるように努力していきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願ひします。

